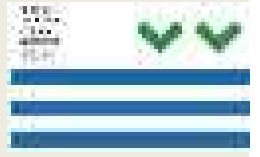
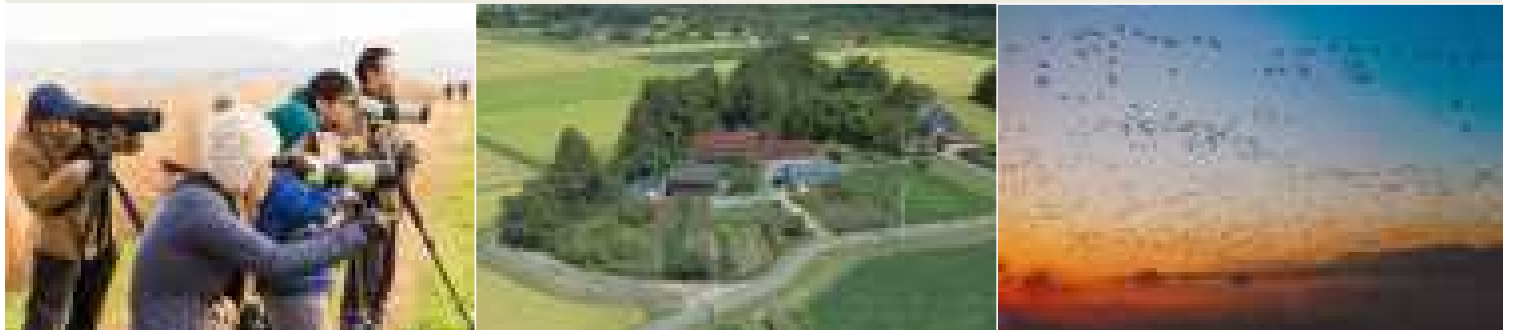


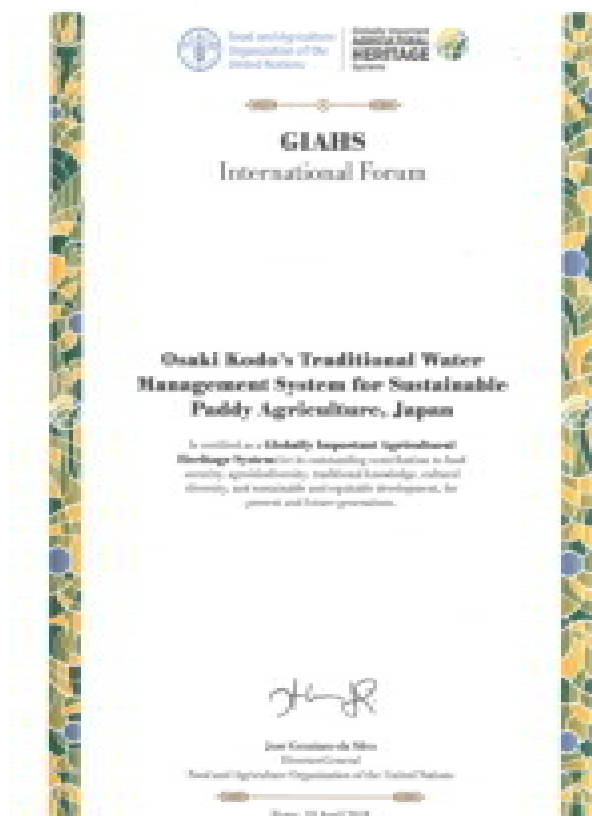
話題提供：大崎市



**世界農業遺産「大崎耕土」 & SDGs未来都市
ネイチャーポジティブの推進について**
大崎市 世界農業遺産推進監 安部祐輝



2017年 世界農業遺産認定
持続可能な水田農業を支える大崎耕土の伝統的な水管理システム



国内の世界農業遺産の認定状況



<農林水産省HPより>



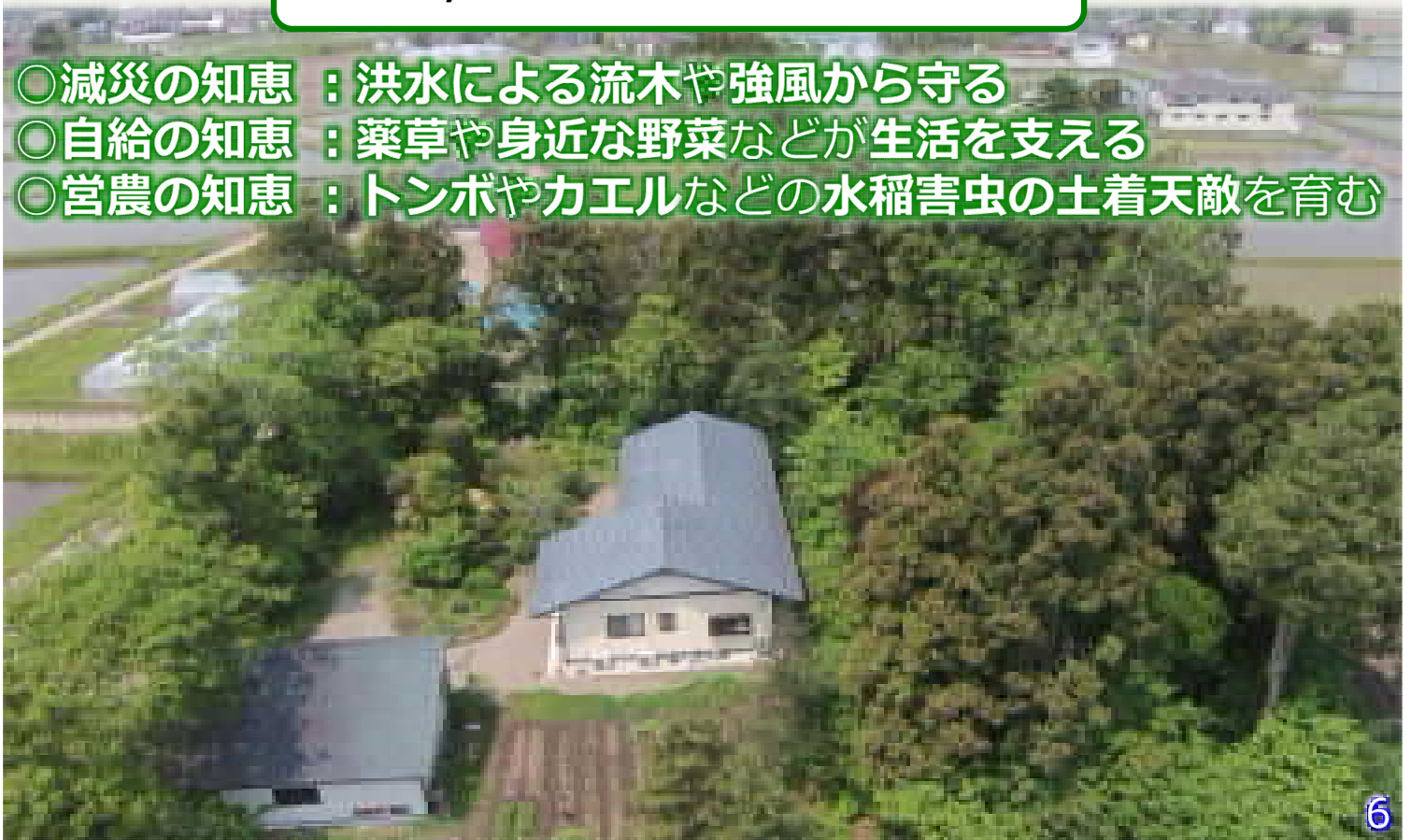


5

世界農業遺産「大崎耕土」の特徴的な景観 & 農業生物多様性

約20,000戸の屋敷林「居久根」

- 減災の知恵 : 洪水による流木や強風から守る
- 自給の知恵 : 薬草や身近な野菜などが生活を支える
- 営農の知恵 : トンボやカエルなどの水稻害虫の土着天敵を育む



6

約80回のプログラム
延べ3500人以上が参加
市内の様々な地域で活動

『おおさき生きもののクラブ』

7

おおさき生きもののクラブを支える7団体

- **NPO法人エコパル化女沼**

湿地の保全、調査、環境教育、食育、ツーリズム

- **NPO法人鬼首山学校協議会**

林業支援、環境教育、食育、ツーリズム

- **NPO法人蕪栗ぬまっこくらぶ**

湿地の保全、調査、環境教育、バイオマス、ツーリズム

- **NPO法人シナイモツゴ郷の会**

湿地の保全、調査、農業支援、環境教育

- **NPO法人田んぼ**

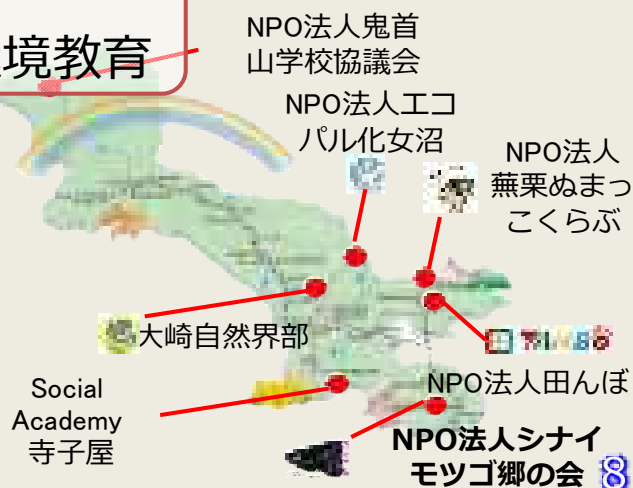
調査、農業支援、環境教育、食育

- **大崎自然界部**

環境教育、農業支援

- **Social Academy 寺子屋**

居久根を活用した環境教育



NPO法人シナイモツゴ郷の会



大崎市鹿島台地域の
「ため池」で活動



- ・ シナイモツゴの復元
- ・ ブラックバス・アメリカザリガニの退治
- ・ 次世代育成事業



**「旧品井沼周辺ため池群」
環境省「自然共生サイト」に認定！**

9

SDGS未来都市モデル事業 **ネイチャー・ポジティブ** 定量化事業

宝の都（くに）おおさき・宮城県大崎市

屋敷林「居久根」及び水田の生物多様性の定量化・評価プロジェクト

概要

「世界農業遺産」認定に高く評価された大崎耕土の特徴的な景観である「居久根」が水田の生物多様性に及ぼす影響について、生物調査を行ない、定量評価するための指標および調査手法を検討するもの。

調査対象：居久根の樹木・クモ水田のガン類・栽培状況・水路の構造

対象地域：古川沢田地域

目的

居久根および水田景観における生物多様性の保全に向け、生物多様性の重要性の見える化と保全活動の促進を図る。

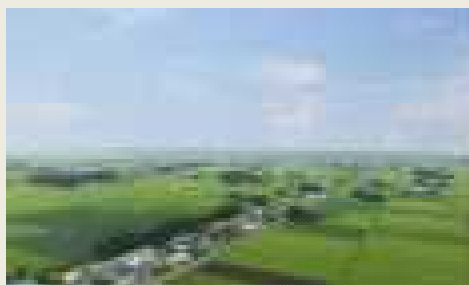
世界の動き

COP15の世界目標
→ 30 by 30の推進
環境要因

→ 激甚化する自然災害やコロナ禍・戦争による価格高騰

居久根からもたらされる効果

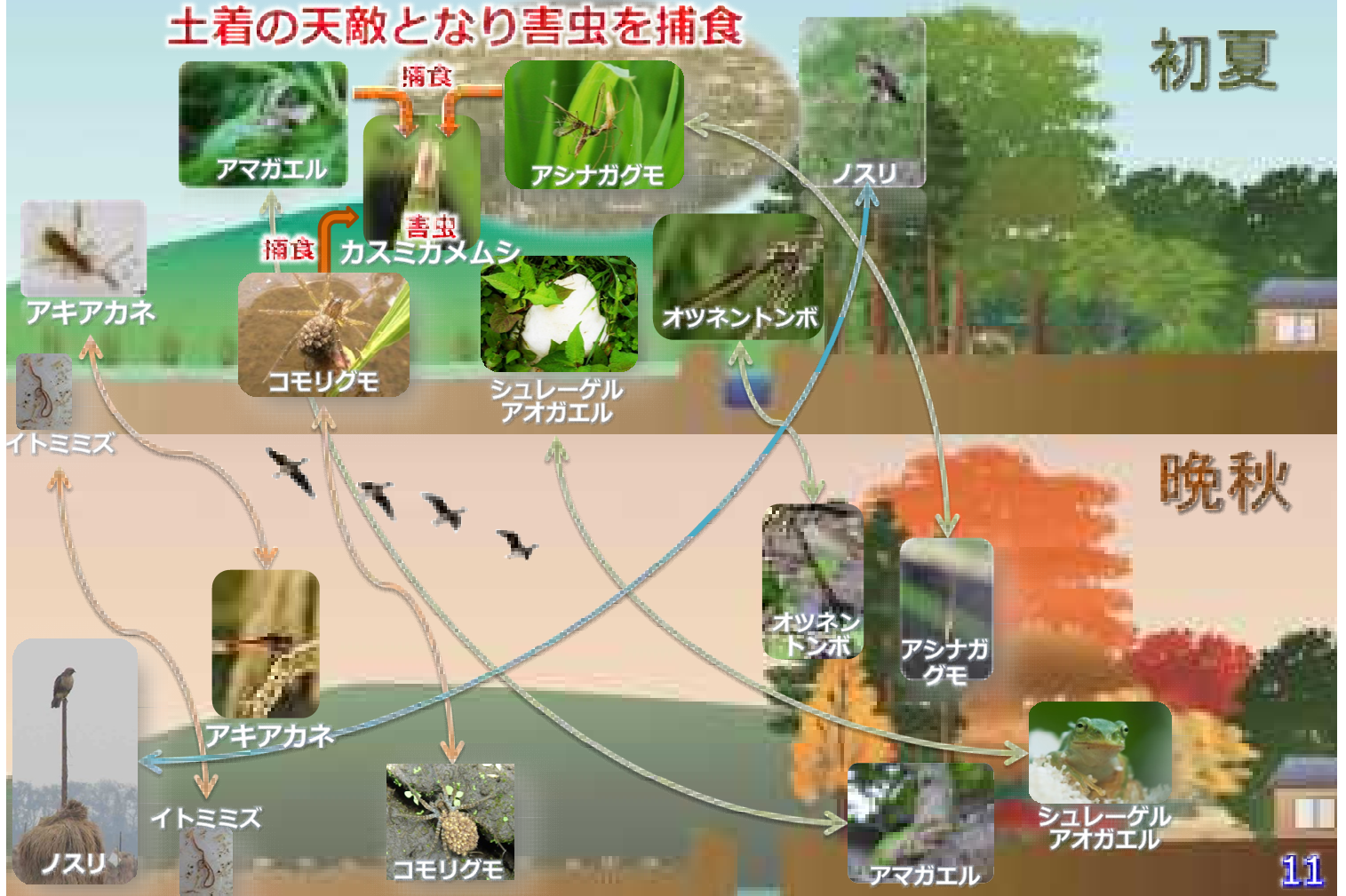
- ・ 所有者の営農と暮らしを支える
 - ↳ 地産地消・自給自足の実施
 - 暑さ・寒さ対策
- ・ 地域住民や近隣企業を守る
 - ↳ 減農薬への貢献
 - 防災・減災機能
 - 企業のCSR活動の推進
- ・ 市の政策を推進
 - ↳ マガン越冬地プロモーション
 - 世界農業遺産の認知度向上
 - GIAHSツアー企画・運営
- ・ 全国的な貢献
 - ↳ 生物多様性の向上
 - 在来種の保全
 - 気候変動対策（CO2吸収）



大崎耕土の全域に広がる屋敷林「居久根」は先人からの知恵が詰まっており、人々の暮らしを守り、多くの生きものを育てている。大崎市には約13,500戸もの屋敷林があり、1戸当たり100本とすると、そこには約135万本以上の樹木が存在しています。

10

土着の天敵となり害虫を捕食



初夏

晩秋

第2回 おおさき GOALS
 ネイチャーポジティブシンポジウム
 - Osaka Nature Positive Symposium -
 ~いま、考える、生物多様性~

3月15日 大崎市役所 本庁舎301会議室
 13時30分～16時30分



「自然共生社会の実現に向けた持続可能な自然利用
 ~市民や企業にとってのネイチャーポジティブ~
 近藤 信生 氏 (東北大学大学院生物科学研究所 教授)

近藤 信生 氏 (東北大学大学院生物科学研究所 教授)
 東北大学理学部卒業、京都大学理学部大学院修士課程修了(博士(理学))、日本学術振興会PD、東北大学理工学部講師、助教歴、助教を経て2018年4月より現職。
 環境DNA/水中や土壌中の生物由来DNAを利用した調査の第一人者で、全国規模での環境DNA調査網である「ANEPIPOVE」を企画、環境省連携で海洋再生社会実現を推進するCOI-NEXTネイチャーポジティブ推進委員会委員(2024年設立)やプロフェッショナルリーダーを務める。

「ネイチャーポジティブの広がり」
 国研院 野田 氏 (環境省生物多様性政策課 自然資源管理室長)
 2002年環境省入局、パーフォーマンスとして国立公園の管理や自然共生事業を担当したほか、環境省自然環境局では30by30自然再生のための政策立案など多岐に、2022年7月より現職。

「自然共生サイトに関する取り組み」
 高橋 博幸 氏 (国土交通省国土政策局 環境課長)
 2002年に開始したネイチャーモジュールの会にて、グリーンCOIとアグリファイバコを推進しながらネイチャーポジティブが生物多様性のために活用されることを目指している。博士(学術)。



「おおさきGIAHS・SDGsパートナー」登録制度



<概要>

- 市のSDGsの取組「大崎耕土GIAHSを核とした持続可能な地域社会づくり」について理解・共感し、その実現に向けて取組む、個人や企業・団体等を市が「おおさきGIAHS・SDGsパートナー」として登録。
- パートナーの見える化・課題や資源の共有・連携による世界農業遺産「大崎耕土」及びSDGsの推進



(パートナーマーク)

<効果・ねらい>

- ・ 世界農業遺産「大崎耕土」やSDGsを自分事として取組む
- ・ 世界農業遺産「大崎耕土」の認知度向上と市民の誇り(シビックプライド)の醸成
- ・ パートナーやステークホルダーとの連携による持続的な大崎耕土の保全の推進

<対象者>

- ・ 以下の登録要件を満たす、市内外の個人、法人、教育機関、その他の団体等

<登録要件(概要)>

- ・ 「大崎耕土GIAHSを核とした持続可能な地域社会づくり」について理解・共感し、市と連携して取組む意思があり、その実現に向けて具体的に取組を実施していること。
- ・ 取組が17のSDGs目標と明確に関連付けられるとともに、「世界・日本農業遺産保全計画(第2期)」の8つの取組基準と連動し、具体的な目標が設定されていること。
- ・ 構成員等が暴力団関係者でないこと。

<周知・募集方法等>

- ・ 市広報やウェブサイト等により制度について周知
- ・ ステークホルダー(金融機関等)へも周知協力を依頼
- ・ 申請者は原則、電子申請(メール等)により申請受付

